

## 意見交換の結果について

## ●意見交換の結果（各中学校区で意見を交換し、校長先生が発表）

## 【下館中及び下館北中学校区】

- ・今の下館中の敷地に、義務教育学校を作るのは難しいのではないか。
- ・小学校の統合をする場合、どのような枠組みとするか難しいが、中小と河間小の児童の減少率が気になる。学区（指定校の基準）を緩和すると、下館小に入学者が流れる傾向がある。
- ・少人数学級の良さもある反面、下館中への入学を考えると、小学校から大人数に慣れさせた方がよい、との意見があった。

## 【下館西中学校区】

- ・当中学校区の特徴として、五所小は西中と北中、伊讚小は下中と西中、と一つの小学校で進学する中学校が分かれる特徴がある。
- ・児童数の減少という点では、やはり、指定校変更が影響しているのではないか。伊讚小学区には保育園がなく、保育園の人間関係を大切にする方が多いために指定校以外の小学校に入学してしまう、という背景があるのではないか。
- ・将来の学校の在り方としては、1クラスでも20人前後を維持できるのならば、これまでの地域との関係も考え、このままの方がよいのではないか、との意見があった。

## 【下館南中学校区】

- ・当中学校区で話し合った一番大きなことは、嘉田生崎小の来年度の入学者数が1人になる件だ。手厚く学習指導を受けられるが、6年間、同級生の友達がいなくなる。他の大きな小学校との交流事業も難しい。
- ・この1人という数字の影響で、来年度、さらに入学者が減少する恐れがある。教育委員会には、嘉田生崎小学区の傾向として、どの地域の子どもが養蚕小に何人行き、どの地域の子どもが大田小に何人行ったか、という過去のデータを示していただきたい。
- ・今後のことを考えると、一つの小学校へ統合する、というよりは、例えば嘉田生崎小学区を分けて、スクールバスを出し、保護者に養蚕小と大田小のどちらかを選んでもらう、という考え方もあるのではないか。
- ・いずれにしても、この1人の児童の動向を注視しながら、中学校に不安なく入学できるよう支援していきたい、との意見があった。

【裏面に続く】

### 【関城中学校区】

- ・当中学校区では、先々、小学校は1クラスになりそうだが、中学校は3クラスを維持できそうなので、比較的、教育活動は維持できるのではないかと考えた。
- ・建物の老朽化という点では、西小は建替えを実施していない。
- ・アンケートの結果では、保護者の約半数が「将来的には検討が必要」と答えており、約半数が「義務教育学校の設置が適当」と答えている。当中学校区は、西小と東小の真ん中に関城中があるので、小学校の統合よりは理解が得やすいのではないかと。
- ・ただ、市内全体を見たときには、当中学校区の優先度は低いのではないかと。
- ・教育委員会には、施設の老朽化や児童数の推移といったデータを資料として示していただき、保護者の皆さんにも説明することが必要ではないかと、との意見があった。

### 【明野中学校区】

- ・当中学校区では、施設一体型の義務教育学校「明野五葉学園」の整備工事が進んでいるため、ソフト面における「よりよい教育環境」について話し合った。
- ・まず、学習の保障について、後期課程の専門の教員が前期課程に乗り入れて教えられることが、一番のメリットになると考えた。
- ・また、前期・後期の異学年交流も、「心の育ち」にとってもよい影響が期待できる。
- ・課題としては、児童生徒の通学に関することが挙げられた。20台と想定されているバスが、通勤ラッシュ時の明野五葉学園周辺に一度に入ってくることで、そこに徒歩の児童、自転車の生徒、さらに保護者送迎の車の出入りを考えると、今後、道路の整備も含めて課題ではないかと、との意見があった。

### 【協和中学校区】

- ・小規模校のきめ細やかな指導を望んでいる、という保護者も少なからずいる。ただ、児童生徒の交流ということを考えると、大きな学校の方がメリットはある。
- ・児童数を見ると、来年度の小栗小と古里小の新1年生が極端に減少する。これは「局面」と言える。少規模校できめ細やかな指導を望んでも、児童数が極端に減少すると、教員の数も減る。そうすると、逆にきめ細やかな指導ができなくなる。児童数の減少によって教員数が減少する「局面」となるのか、注視すべきだ。
- ・アンケートの結果では、当中学校区で最も多い回答は、どこも「小学校の統合」だ。
- ・まずは、どのような教育が必要か、方針をしっかりと決めたいうえで、行政的な資料（費用や耐用年数のデータ）を踏まえ、地域にあった教育や学校規模について、早い段階で、地域の意見を集約することが必要ではないかと、との意見があった。